

決算説明会

2025年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社
2024年8月2日

吉田です。
2025年3月期第1四半期の連結実績についてご説明します。

1Q連結業績サマリー

売上高、営業利益は1Qとして過去最高

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	292,370	348,803	355,454	+21.6%	+1.9%
営業利益	6,743	20,342	20,025	3.0倍	-1.6%
税引前利益	8,502	22,602	19,357	2.3倍	-14.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	4,109	18,327	13,936	3.4倍	-24.0%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	10.06	45.32	34.46	3.4倍	-24.0%

為替レート	2024年3月期 1Q	2024年3月期 4Q	2025年3月期 1Q
US\$	134.92円	146.76円	153.14円
ユーロ	146.23円	159.48円	165.45円
タイバーツ	3.93円	4.15円	4.21円
人民元	19.46円	20.43円	21.16円

2024/8/2

2

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

2025年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で21.6%増、前四半期比1.9%増の3,554億5,400万円となりました。

営業利益は、前年同期比で3倍、前四半期比1.6%減の200億2,500万円となりました。

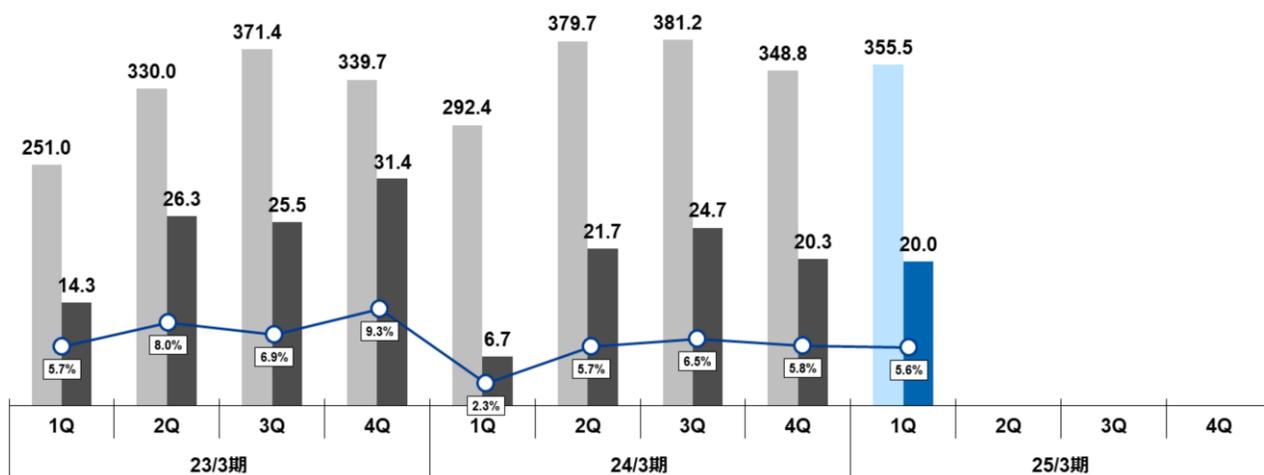
親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で3.4倍、前四半期比で24.0%減の139億3,600万円となりました。

売上高、営業利益は第1四半期として過去最高となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期プラス115億円、前年同期比プラス336億円、営業利益は前四半期比でプラス26億円、前年同期比はプラス68億円との推計です。

売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)



2024/8/2

3

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

第1四半期の営業利益率は5.6%となりました。これは前年同期比では3.3ポイント増加、前四半期比では0.2ポイントの低下となりました。

1Q実績 期初予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



2024/8/2

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、第1四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、5月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

売上高においては、PTは、データセンター市場が底入れから回復基調にあったほか、航空機向けが堅調に推移し、想定を上回りました。

MLSは、HDDモーターや車載モーターを中心にモーターが想定を上回ったものの、電子デバイスが想定を下回りました。

SEは、主に機構部品、光デバイスで想定を大きく上回りました。

ASは、車載デバイスが想定を上回りました。

営業利益においては、PTは、主にベアリングの生産数量回復により、想定を上回りました。

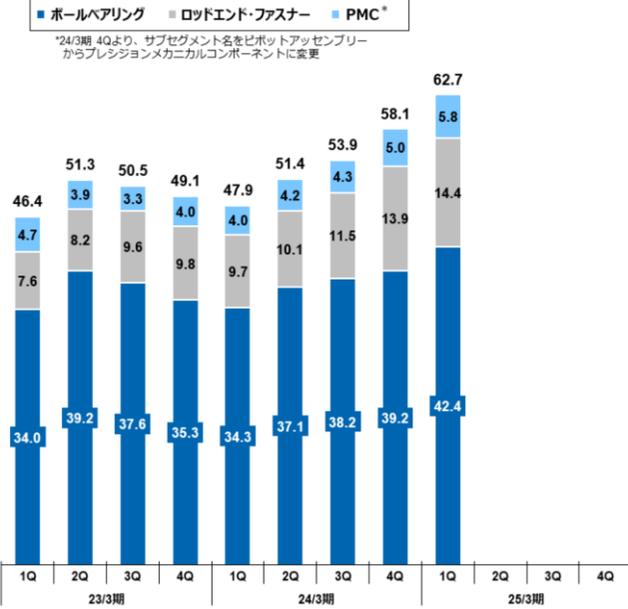
MLSは、ミックスの改善により想定を上回りました。

SEは、増収効果もあり想定を上回りました。

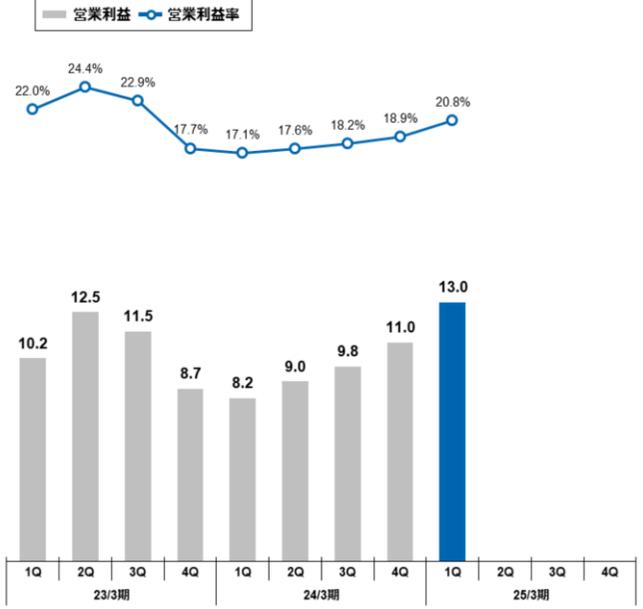
ASは、概ね想定どおりとなりました。

プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



*24/3期 4Qより、サブセグメント名をヒボットアクセスブローからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更

2024/8/2

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらはプレジジョンテクノロジーズセグメントの四半期ごとの推移です。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第1四半期の売上高は627億円、前四半期から7.8%の増加となりました。

ボールベアリングの売上高は424億円、前四半期比で8.1%の増加となりました。外販数量は月平均で2億2,300万個、前四半期比で6.1%の増加でした。これは、主にデータセンター等に使用されるファンモーター向けが回復したことが要因です。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は144億円となり、前四半期比で3.8%の増加でした。

PMCは58億円となり、前四半期比で17.2%の増加となりました。

営業利益ですが、当四半期は130億円、営業利益率は20.8%となりました。

前四半期比では、営業利益は18.4%の増加、営業利益率では1.9ポイントの上昇となります。

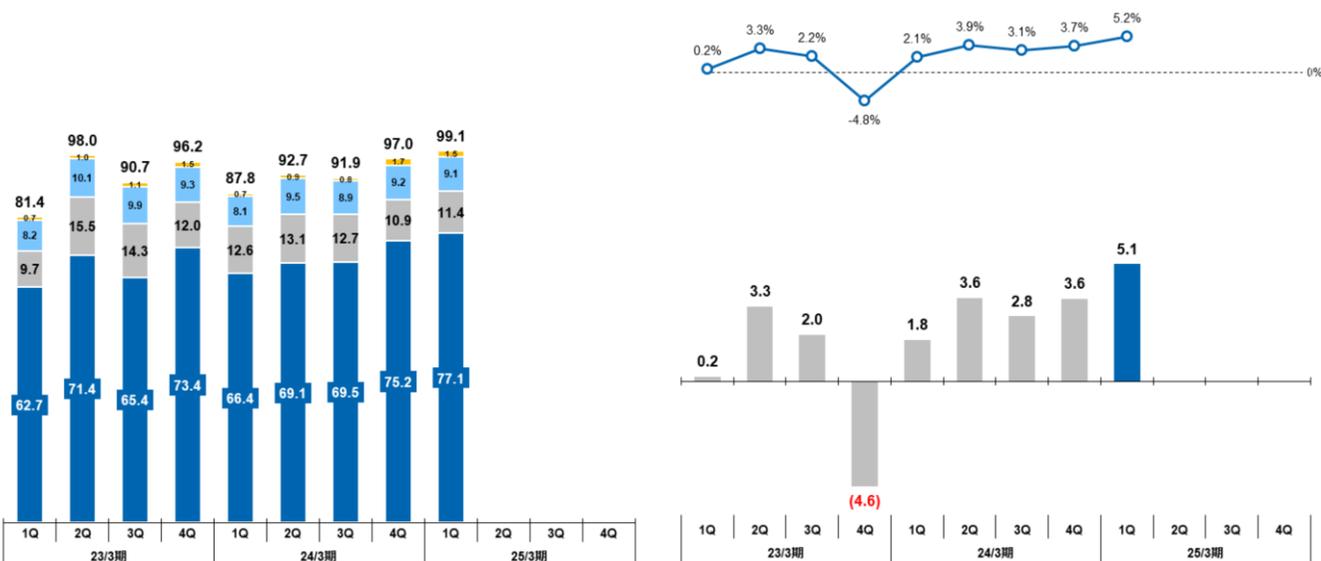
モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他

■ 営業利益 ● 営業利益率



2024/8/2

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらはモーター・ライティング & センシングセグメントの四半期毎の推移です。

売上高は991億円、前四半期比で2.2%増となりました。

製品別では、モーターは前四半期比2.6%増の771億円となりました。これは、HDD向けモーターが増加したほか、車載向けモーターが堅調に推移したことによります。

エレクトロデバイスは114億円、前四半期比3.9%の増加となりました。

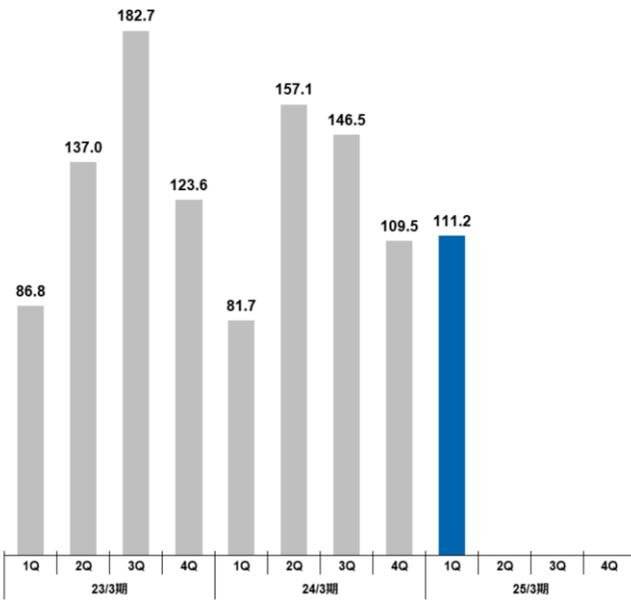
センシングデバイスの売上高は91億円となり、前四半期比で0.7%減となりました。

営業利益は51億円、営業利益率は5.2%となりました。

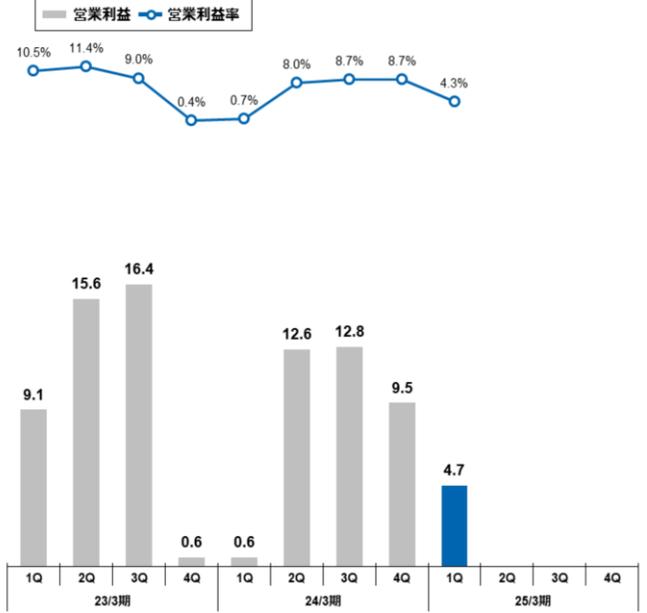
前四半期比では、営業利益は42.1%の増加、営業利益率は1.5ポイント増となりました。

セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2024/8/2

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

セミコンダクタ&エレクトロニクスセグメントの四半期毎の推移です。

売上高は1,112億円と、前四半期比1.6%の増加でした。

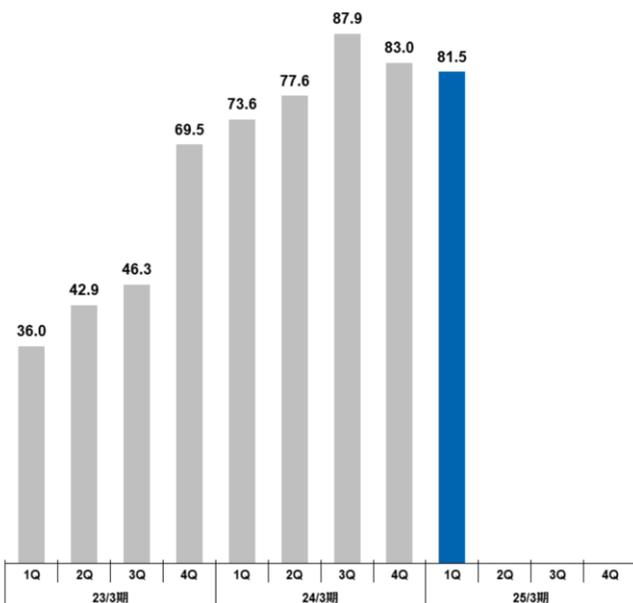
これは、主に2024年5月2日をもって連結子会社としたミネベアパワーデバイス(旧日立パワーデバイス)の組み入れによる増収などによるものです。

営業利益は47億円となり、営業利益率は4.3%となりました。

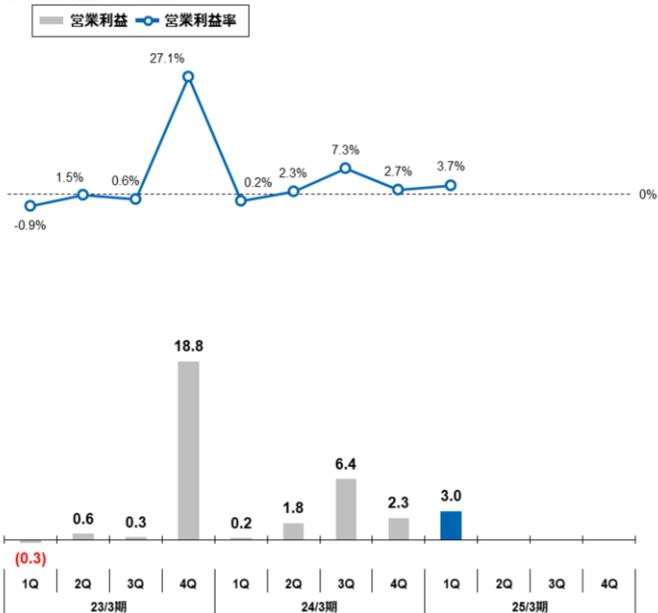
前四半期比では、営業利益は50.4%の減少、営業利益率は4.4ポイントの減少となりました。

アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2024/8/2

8

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

アクセスソリューションズセグメントの四半期ごとの推移です。

売上高は815億円、前四半期比で1.8%の減少となりました。

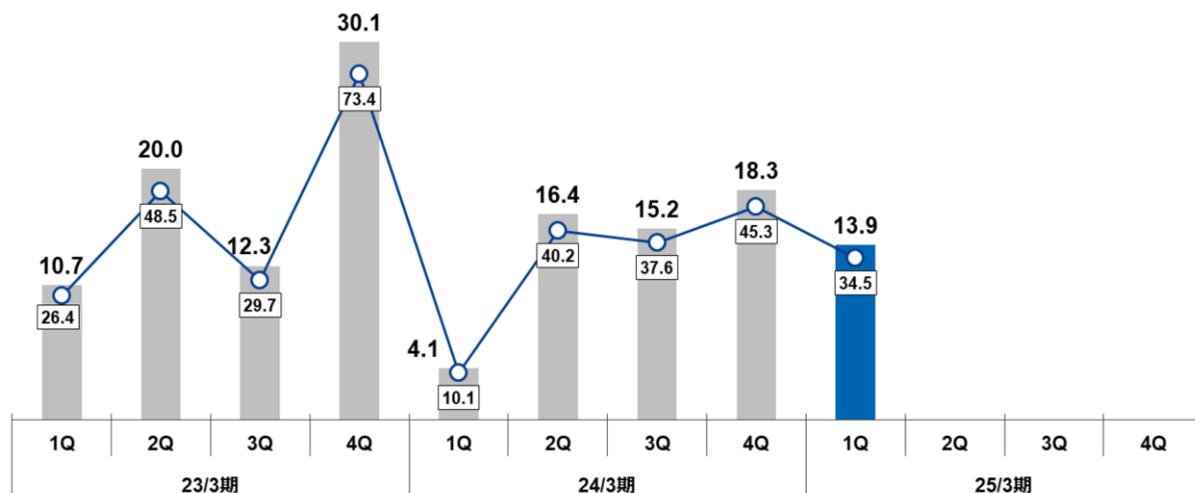
これは、車載デバイスは増収となったものの、中国市場において販売が低迷したこと等によるものです。

営業利益は30億円、営業利益率は3.7%となりました。

前四半期比では、営業利益は31.6%増、営業利益率で1.0ポイント増加となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円) ■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



2024/8/2

9

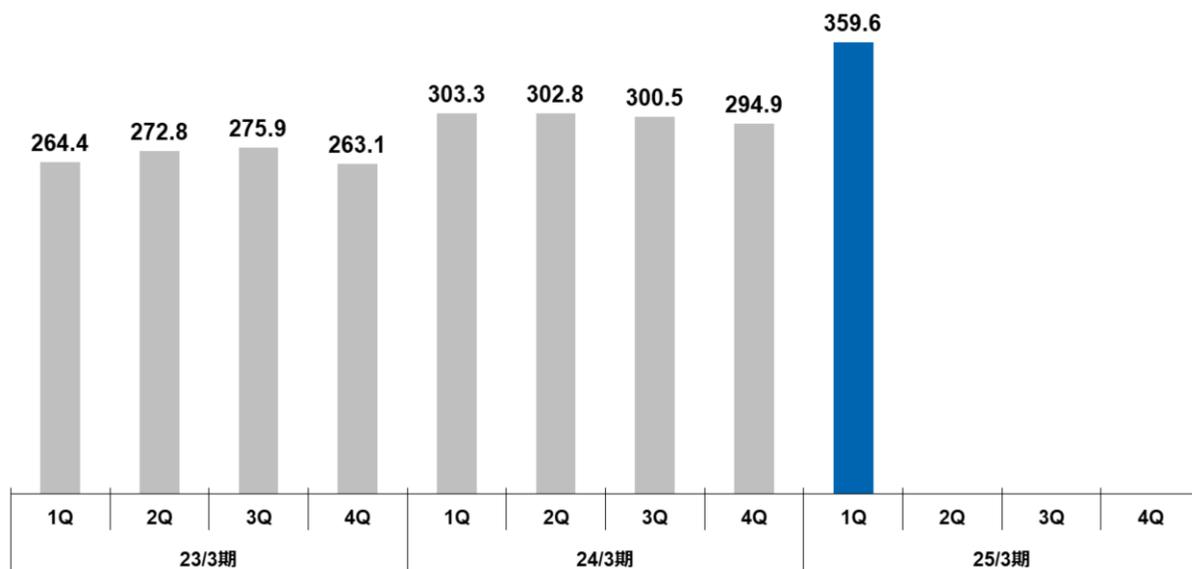
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は139億円、1株当たりでは34.5円となりました。

棚卸資産

(10億円)



2024/8/2

10

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

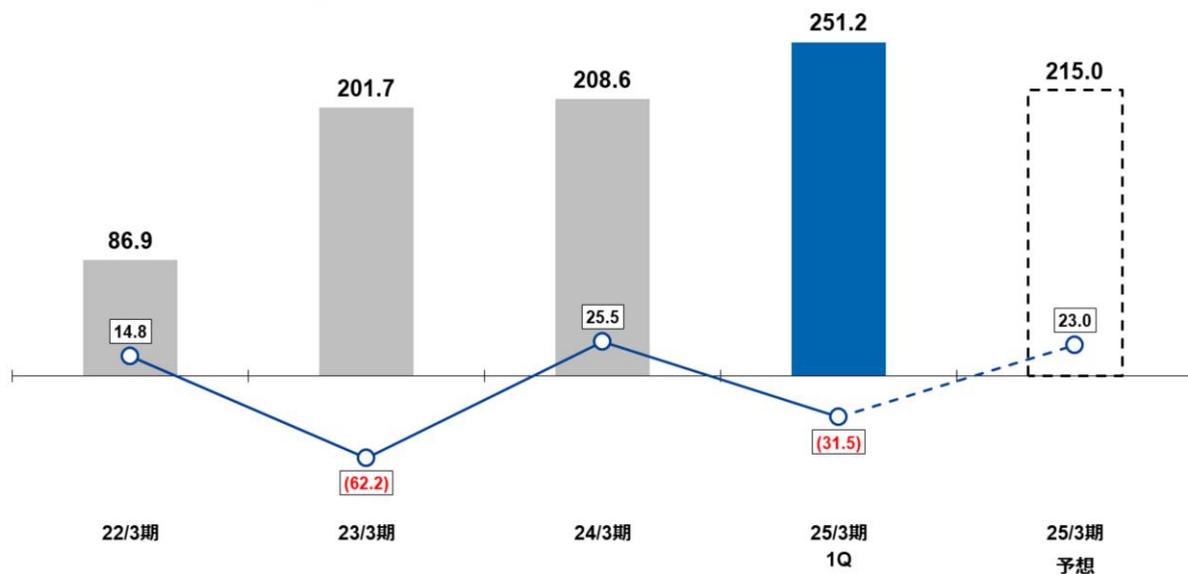
続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第1四半期末は3,596億円となり、3カ月前と比べると647億円の増加となりました。

これは、為替の影響に加え、2Q以降見込まれている販売増加のために必要な在庫を戦略的に積み上げたことなどによります。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円) ■ ネット有利子負債* ○ フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

2024/8/2

11

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第1四半期末におけるネット有利子負債は2,512億円となり、2024年3月末から426億円増加しました。

2025年3月期末は、営業キャッシュフローは増加するものの、主にミネベアパワーデバイス等のM&A関連費用での支出を見込んでいます。

1Q上振れ分を上方修正

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	770,000	790,000	1,560,000	+11.3%
営業利益	73,536	48,000	55,000	103,000	+40.1%
税引前利益	75,545	46,000	53,000	99,000	+31.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	54,035	34,000	39,000	73,000	+35.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	133.05	84.08	96.44	180.52	+35.7%

為替レート	2024年3月期 通期	2025年3月期 2Q-4Q想定
US\$	143.31円	140.00円
ユーロ	155.18円	150.00円
タイバーツ	4.08円	4.00円
人民元	20.03円	18.50円

2025年3月期の通期業績予想につきましては、5月に発表した予想から上方修正しました。

売上高は1兆5,600億円、営業利益は1,030億円とします。

第1四半期実績が売上、利益とも想定に対して上振れた分のみを、通期業績予想へ反映しました。

セグメント別の詳細は14ページにありますが、売上高については、各セグメントで上方修正しました。

営業利益については、PT、MLSセグメントで上方修正をおこない、ASセグメントは据え置き、SEセグメントは下方修正しました。

為替レートは1ドル140円を想定しています。

セグメント別業績予想

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	770,000	790,000	1,560,000	+11.3%
プレジジョンテクノロジー	211,406	126,000	129,000	255,000	+20.6%
モーター・ライティング&センシング	369,388	206,000	209,000	415,000	+12.3%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	494,717	272,000	283,000	555,000	+12.2%
アクセスソリューションズ	322,108	164,000	166,000	330,000	+2.5%
その他	4,508	2,000	3,000	5,000	+10.9%
営業利益	73,536	48,000	55,000	103,000	+40.1%
プレジジョンテクノロジー	38,035	26,500	28,500	55,000	+44.6%
モーター・ライティング&センシング	11,867	12,000	12,000	24,000	2.0倍
セミコンダクタ&エレクトロニクス	35,522	15,000	18,000	33,000	-7.1%
アクセスソリューションズ	10,625	7,000	10,000	17,000	+60.0%
その他	△728	△500	△500	△1,000	-
調整額	△21,785	△12,000	△13,000	△25,000	-

2024/8/2

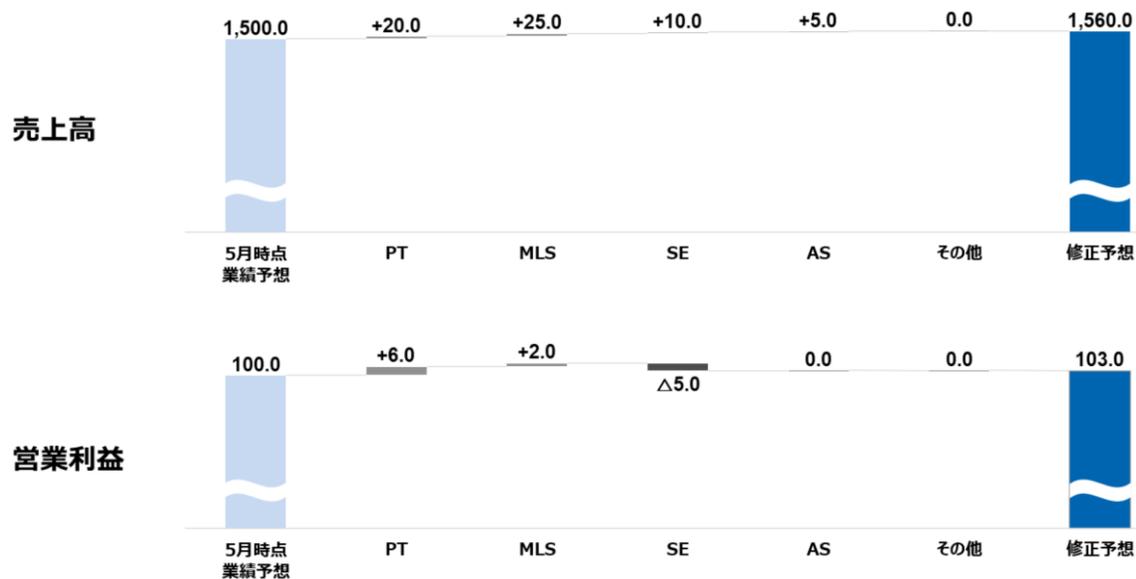
13

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

通期業績予想 5月時点業績予想からの差異

(10億円)



2024/8/2

14

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、今回の業績予想修正と5月時点予想の差をチャートでお示したものです。
以上で私からの発表を終わります。

1Qは想定に対し上振れ着地。市場環境はコロナ前にほぼ回復したことを確認

<p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1Q上振れ分を上方修正。2Qも好調が続く見込み ● PT、MLSはデータセンター向け、高収益製品が市場回復。2Q以降も好調継続を見込む ● SE、ASは想定通りの着地 ● 中国を中心とした市場減速は懸念事項だが、中国ローカル向けの販売比率は低く、影響は小さい
<p>プレジジョン テクノロジーズ (PT)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ファン用途向けのベアリング、HDD向けピボットは底入れから回復。生産・販売数量の回復に伴い収益性の改善を見込む ● 自動車向けは日系OEMの認証問題の影響を多少受けるが、コンテンツグロスにより引き続き堅調 ● 航空機向けは一部サプライチェーン問題は残るも航空機需要は堅調に回復（ダブルアイルも回復傾向）
<p>モーター・ ライティング& センシング (MLS)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● HDD向けモーターはハイエンドのニアラインが堅調。プロダクトミックス改善で収益力回復へ ● 車載向けモーターはグローバルニッチトップ製品の好調継続。OAなどその他モーターも順調に回復 ● スマートフォン向けバックライトは終息に向かう
<p>セミコンダクタ& エレクトロニクス (SE)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体はBBレシオ 1を上回るも市場回復はまだ途上。ミネベアパワーデバイスのPMIは推進中 ● スマートフォン向けカメラアクチュエータ生産・販売は2Qに増大。3Q以降の動向を注視
<p>アクセス ソリューションズ (AS)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系OEMの中国市場での販売減速の影響を受けるが、通期の営業利益見込は期初想定を維持

2024/8/2

15

貝沼です。

それでは私から、本日のポイントについてご説明します。

このページは、基本的には記載内容をご覧いただければと思いますが、間違いなく市場環境はコロナ前にほぼ戻ったと考えています。

回復が遅れていた産業機械もコロナ前の状態までとは言えませんが、確実にボトムアウトしています。また、スマートフォン用LEDバックライトのビジネスはなくなりますが、為替にも助けられ、グループ合計の売上高、営業利益とも1Qの過去最高という結果になりました。

これから先も上々の手応えを感じており、その理由をこれから皆様にお話をしていきたいと思っています。

1Q上振分のみを上方修正。2Qも計画以上か？

(百万円)	2024年3月		2025年3月期				
	1Q	通期	1Q	前期比	2Q-4Q	通期	前期比
売上高	292,370	1,402,127	355,454	+21.6%	1,204,546	1,560,000	+11.3%
営業利益	6,743	73,536	20,025	3.0倍	82,975	103,000	+40.1%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	4,109	54,035	13,936	3.4倍	59,064	73,000	+35.1%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益(円)	10.06	133.05	34.46	3.4倍	146.06	180.52	+35.7%

2024/8/2

16

2Qについても、非常に強い手応えを感じていますが、現在の為替の変動もあり、2Q以降の業績予想の判断はもう少し時間をいただきたいと考えています。

営業利益は、前年同期比3倍となりました。これは、5月の決算発表でもご説明しましたが、多品種少量の高級部品あるいは高付加価値ベアリングなどの機械加工品、ハイエンドのモーターなどが回復してきたということです。

オーバーに言うと、この2日間で10円ぐらいの円高になっていますが、本日2024年8月2日の為替は時間によっても違いますが、ドル円は1Q実績153.14円に対して149円～150円程度、ドルパーツは1Q実績36.38パーツ、に対して35.56パーツとなります。この程度であれば、営業利益1,030億は十分達成できると考えています。

データセンター他、高収益製品市場全体が回復。2Q以降も好調継続を見込む

主なポイント

- 1 ボールベアリング
 コロナ前の水準に回復 (7月はほぼ3億個へ)
 データセンター向けは下半期に向けて徐々に増加。車載、その他高収益製品も堅調に推移
- 2 ロッドエンド・ファスナー
 一部サプライチェーン問題は残るが
 旅客数回復に伴いシングル・ダブルアイル需要も増加。堅調な回復が続く
- 3 プレジジョンメカニカルコンポーネント (PMC)
 ボールねじ及びボールウェイ事業の
 経営統合準備は順調に進む

ボールベアリング 外販・内販数量 (月次平均・百万個)
 PT営業利益率の推移(%)



2024/8/2

17

景気が良くなる時に1番先に良くなり、景気が悪くなる時に1番最後に悪くなるのはベアリングであることはこれまでもご説明してまいりましたが、ついにベアリングが復活してきました。

7月の月次平均販売はほぼ3億個となりました。11月には3億個を超えていくという予想になっており、このグラフでもお示ししているように、なだらかに増加していくイメージです。

4月と7月を対比しますと、ファンモーター向けは43%アップ、医療向け等も51%アップ、さらに、ピボットアセンブリーもデータセンター向けの回復に伴い月産約1,200万個となっており、内販外販とも着実に増加しているのがベアリングの状況です。

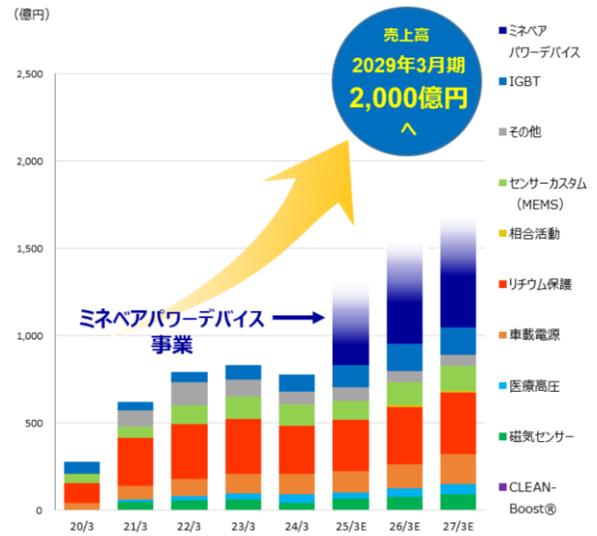
半導体は回復途上。カメラアクチュエータの需要動向を注視

主なポイント

- 1 アナログ半導体
 ミネベアパワーデバイス：
 PMIを推進中。価格調整を進める
 滋賀工場と一体となりIGBTを量産・拡販
 エイブリック：
 下半期に向けて車載、データセンター需要回復
 で収益力のさらなる回復見込む
 ミツミ 半導体事業部：
 スマートフォン回復により主力の
 リチウムイオン保護ICの数量増加を見込む

- 2 光デバイス
 2Qの内示は強く、買い替え需要の動向見極め

半導体部門 売上計画イメージ (ミネベアパワーデバイス統合後の想定値)



セミコンダクタ&エレクトロニクス(SE)について、光デバイスは、想定よりも数%シェアダウンしました。我々の立ち上げが少し遅れてしまったのですが、全体に与えるインパクトは非常に限定的だと考えています。

コア事業8本槍戦略における各製品の強靱化に取り組む中で、全ての事業が最高の結果を出すというのは非常に難しく、凸凹があります。光デバイスはサブコア事業という位置付けでもあり、我々としては大きな心配は全くしていません。万が一シェアがこのまま進んだとしても全体に与える影響は大きくはありませんし、シェアが戻ればプラス要因になると考えています。

さらなる成長につながる相合の成果が結実 中国市場リスクを織り込み保守的なスタンスは変わらず

主なポイント

- 1 相合による高付加価値製品の開発の成果が結実
ウイングハンドルがBMWに採用決定
ドアハンドルも新たな世界へ
- 2 車載デバイスの利益貢献も継続
- 3 中国市場を中心とする市場減速による影響は想定よりも大きい
統合によるコスト削減に取り組む

ウイングハンドル

- ドアロック、モーター、センサーの相合により、これまでにないタッチセンサー操作による電動ロック/アンロックが可能に
- デザイン性を高め、シンプルなドアシステムを実現することで、自動車設計の自由度を高める



アクセスソリューションズ(AS)は、大きなピックスを3つお話ししたいと思います。

まず、車載デバイス(旧ミツミのアンテナなど)は長い間赤字が続いていましたが、常に5%以上の営業利益が出せるようになり、やっと花が出て非常に楽しみになってきました。

2番目は、アメリカの旧ホンダロック系の工場が黒字転換したということです。中国ではお客様も苦労されており、我々部品メーカーも少なからず影響を受けていますが、中国の落ち込みを、車載デバイスの成長、アメリカの黒字転換でカバーしていける体制が整ってきています。

3番目は、BMW社に我々のウイングハンドルを採用いただいたことです。皆様から「なぜアクセスソリューションズに参入したのか」と多数の質問をいただいてきたなかで、この分野はテクノロジーチェンジがあり電子機器パーツになっていくというご説明をしまりました。本件が、そのご回答になります。

まさに、当社のコーポレートスローガン「Passion to create value through difference」の「違いから価値を創造する情熱」、つまり「相合」することにより違いを生み出したということです。

高級車のアクセス製品はこれからますます変化していきます。その中で我々が参入していけることを非常に嬉しく思っています。

- 1 構造改革の成功 = 8本槍戦略の正当性を証明**
✓ LEDバックライトの営業利益がほとんどなくなったにもかかわらず
今期は1,000億円を超える営業利益を見込む
- 2 数々の高付加価値製品がこれから数年に渡り上市。「収穫期」へ**
HVAC用アクチュエーター、車載用ブラシレスモーター、LiDARモーター、静音ベアリング、ウイングハンドル etc.
✓ これらの製品は**平均で10%程度の営業利益率**を狙える！
- 3 10%以上の(実質的)営業利益率に引き上げるため戦略・執行の一部を修正**
✓ **売上高2.5兆円、営業利益2,500億円の目標は堅持** ※ 実質的営業利益率：支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率

これらの戦略の実施により

2.5兆円の売上が成立した時

2,500億円の営業利益のイメージを作る！

2024/8/2

21

前回5月の決算説明会でも過去15年間の軌跡、現在の状況、将来についてご説明しましたが、大きく言えることは3つあります。

まず、構造改革に成功したことです。旧ミネベア時代の最高新記録の営業利益約600億円のうち、スマートフォン用LEDバックライトが大部分を占めていました。しかし、このビジネスがなくなっても1,000億円を超える営業利益を見込めるようになりました。

そして、ここでは書ききれないほどの様々な新製品がこれから市場に投入され、ついに「収穫期」に入ってきたと思っています。

さらに、営業利益率が低いとたびたびご指摘をいただいておりますが、売上高2.5兆円、営業利益2,500億円の実現を信じていただくために、まずは実質的営業利益(支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率)10%を達成したいと考えています。売上高2.5兆円、営業利益2,500億円の目標を堅持しつつ、営業利益率にこだわった経営を始めています。

自己株式の取得

自己株式取得に係る事項を決議（2024年8月2日）

- 取得株式総数： 上限280万株
(発行済株式総数（自己株式を除く）の0.69%）
- 取得株式総額： **上限100億円**
- 取得期間： 2024年8月21日から2024年12月23日まで
- 取得理由： 株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するため

配当

原則として連結配当性向20%程度を目処としておりますが、経営環境を総合的に勘案し、継続して安定的な配当を目指します。

2024/8/2

22

本日（2024年8月2日）は、日本のマーケットは史上2番目の下げ幅だったようですが、我々は、長期的な視点から自己株式の取得を実施させていただきます。ただ、本日開示した「業績連動型株式報酬制度における株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」「業績連動型株式報酬制度の継続に伴う第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ」の通り、役員向けの株式交付信託への追加信託にかかる自己株の処分が8月20日となっています。これを終了しないと自社株買いはできないという法律上の規制があり、自社株買いの開始は8月21日から12月23日までとさせていただきますと考えています。

以上で私の発表を終わります。
ありがとうございました。

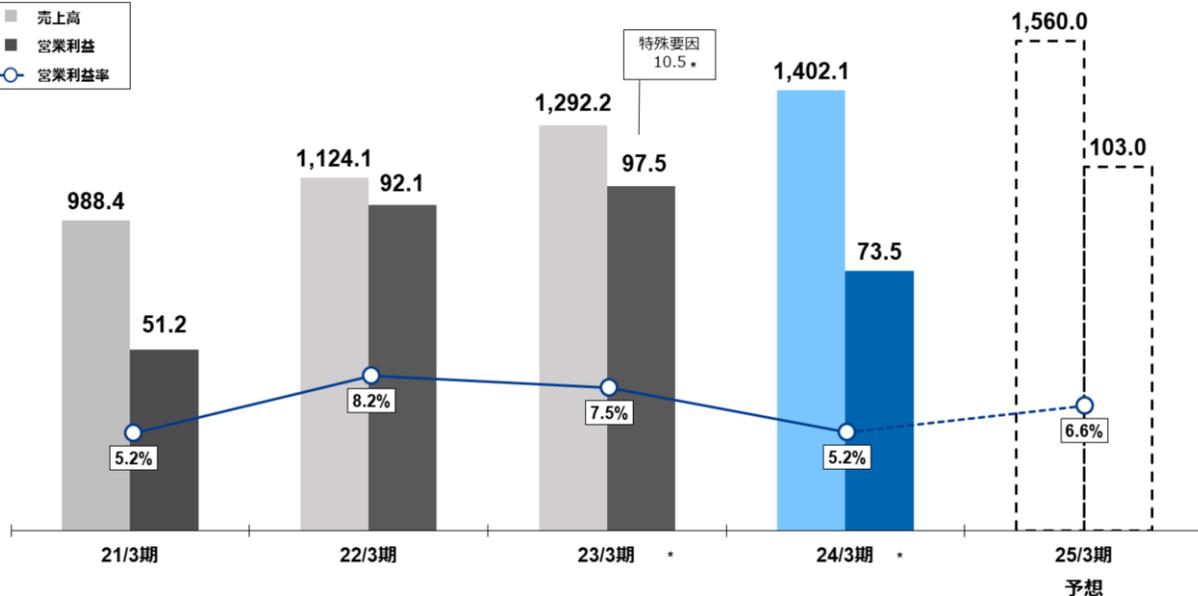
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)

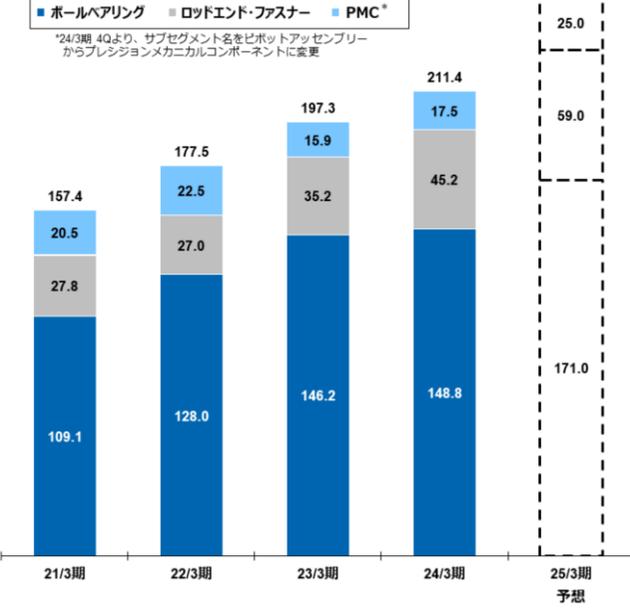
*本多通信工業・ミネベアコネクテッド・ミネベア アクセサソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を過及修正



特殊要因
10.5*

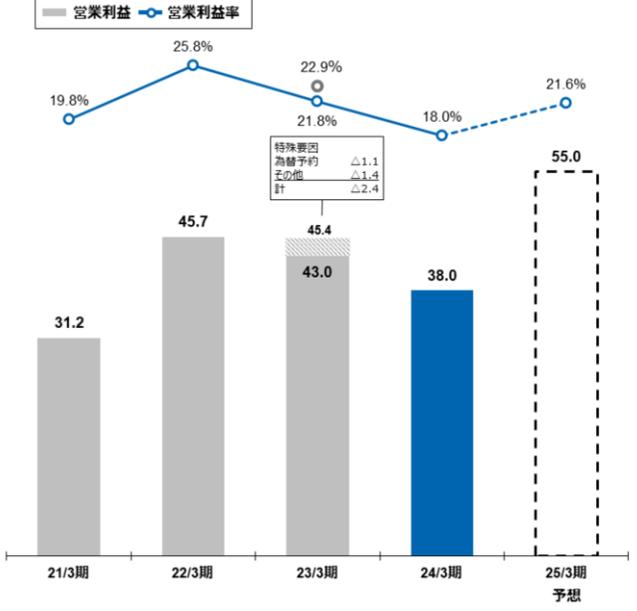
プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (10億円)



*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更

営業利益 (10億円)



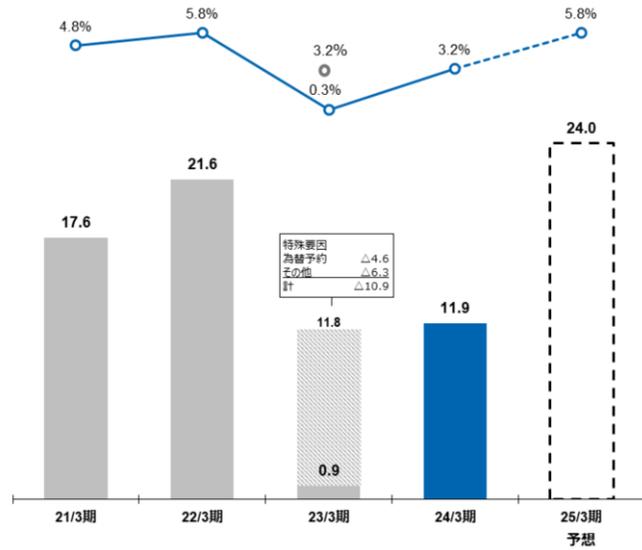
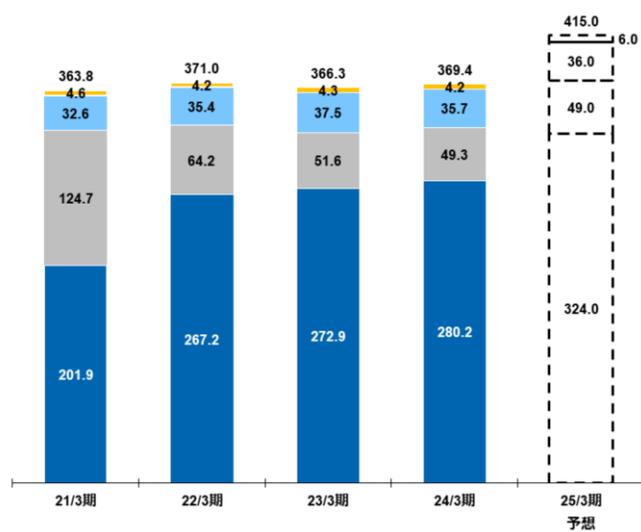
モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他

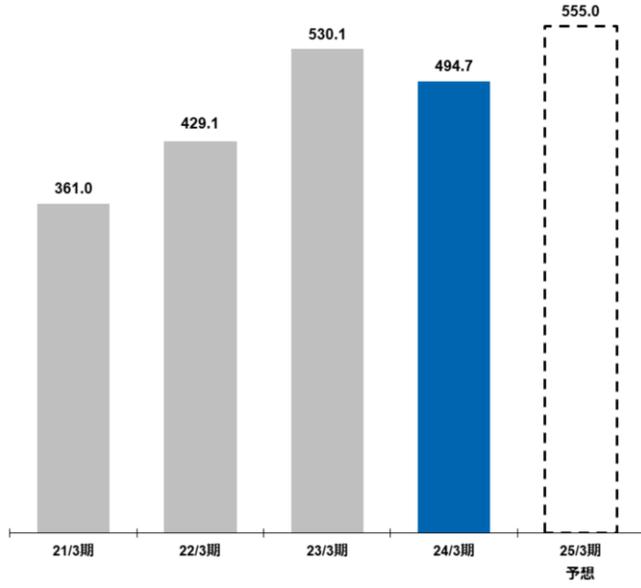
営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率

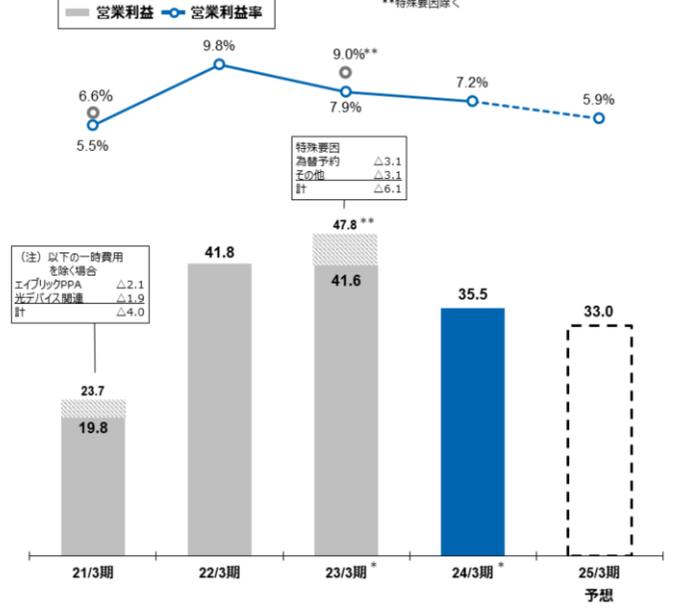


セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



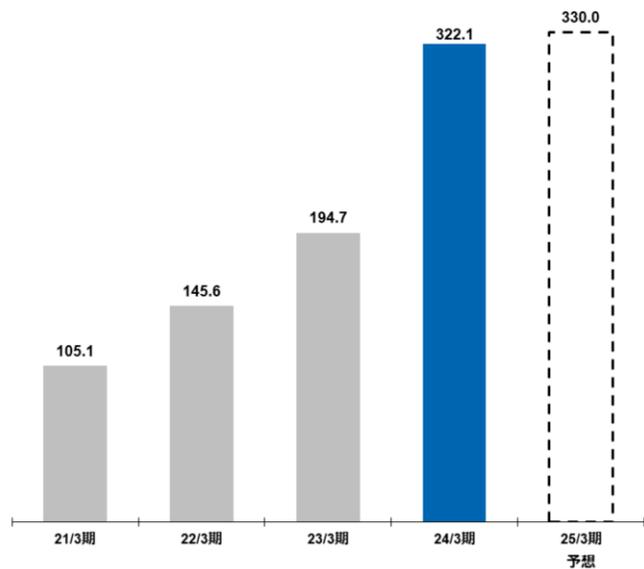
営業利益 (10億円)



*本多通信工業・ミネベアコネクットのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第2四半期以前の営業利益を訂正
**特殊要因除く

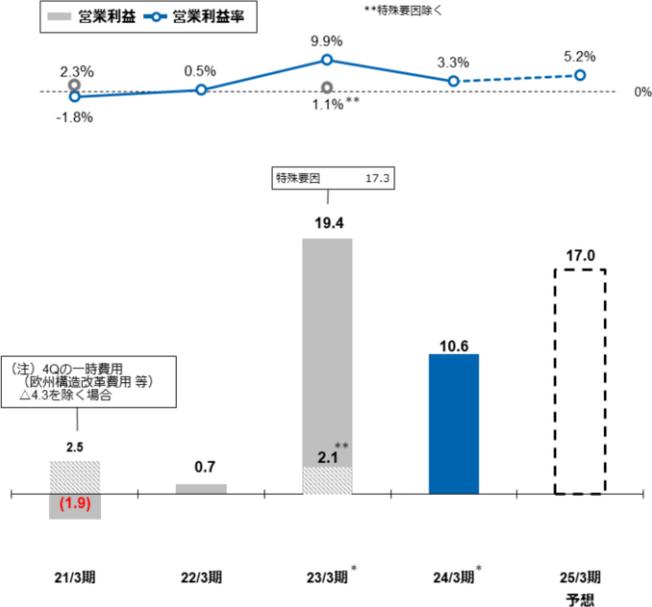
アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



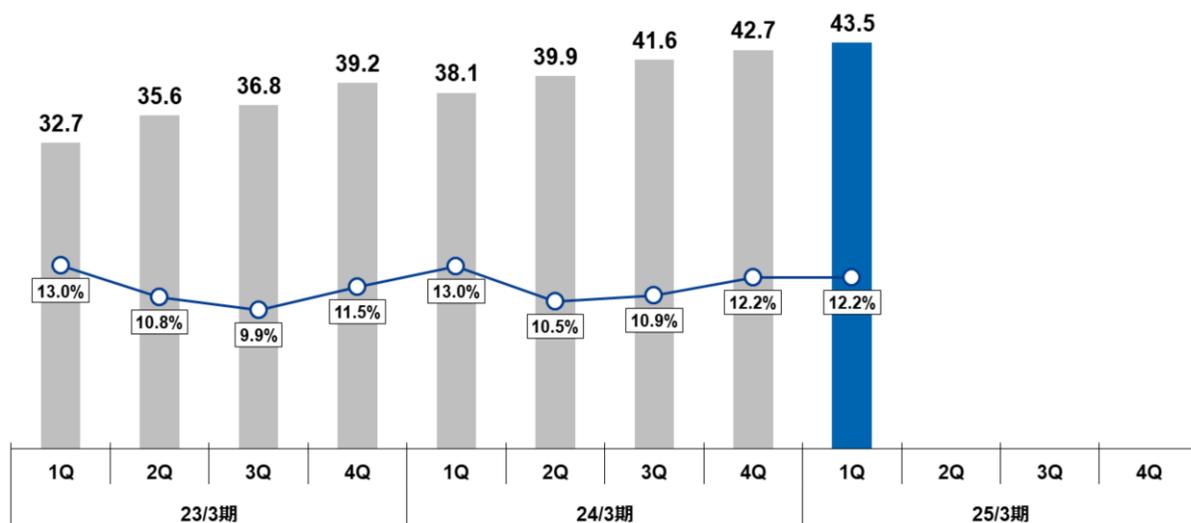
営業利益 (10億円)

*ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を過及修正
**特殊要因除く



販管費

(10億円) ■ 販管費 ○ 売上高販管費比率



2024/8/2

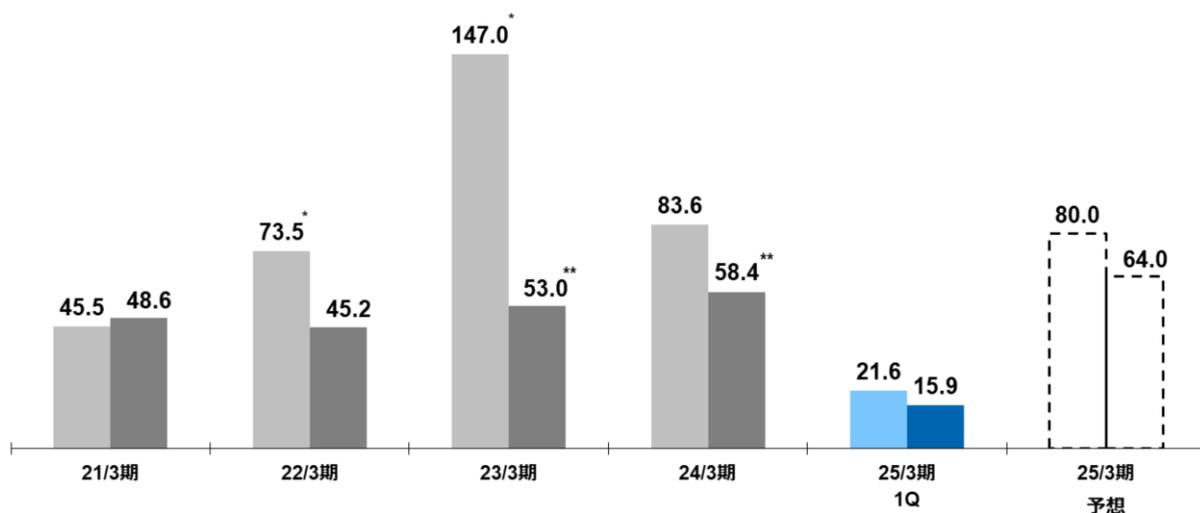
30

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



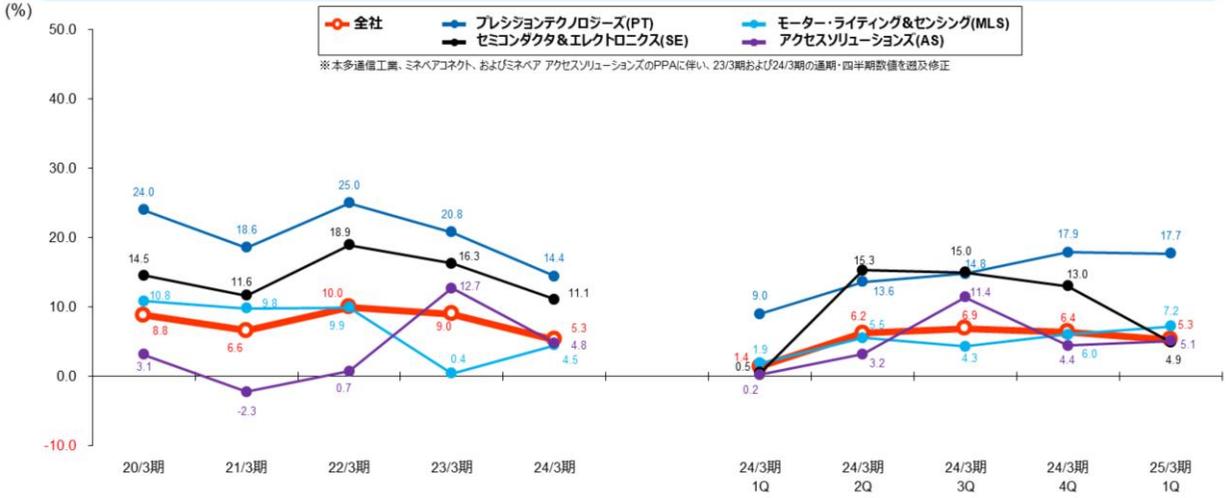
*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本ビル取得費用が含まれています。

**本多通信工業・ミネベアコネクテッド・ミネベア アクセサリーソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を過及修正。

ROIC (投下資本利益率)

$$\text{MinebeaMitsumi版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出



※本多通信工業、ミネベアコネク、およびミネベア アクセスソリューションズのPPAIに伴い、23/3期および24/3期の通期・四半期数値を過及修正